大学体育研究　37：11 － 18，2015

第34回東アジア研究型大学協会理事会における柔道演武報告

桐生習作[1)]，小林優希[2)]，川戸湧也[2)]，渡部真未[3)]

Association of East Asian Research Universities The 34th Board of Directors Meeting Report of Judo Demonstration

Shusaku KIRYU[1], Yuki KOBAYASHI[2], Yuya KAWATO[2], Mami WATABE[3]

1　はじめに

2014年4月3日（木）・4日（金）の2日間，AEARU（The Association of East Asian Research Universities：東アジア研究型大学協会）の第34回理事会が筑波大学にて実施された。

AEARUは1996年1月8・9日，香港科学技術大学において東アジアの9つの主要な研究型大学長が会合し，当該大学間の交流促進を目的として設立された国際大学連合である。現在，AEARUは東アジア地域4か国，17の研究型大学で構成される国際大学連合にまで発展した[1]。AEARUでは東アジアという地域的・文化的な類似性を活かし，研究者及び学生の交流，共同研究プロジェクトの推進，特定にテーマに対する会議・ワークショップの開催など，相互の関心に基づく協力を行うことを目的とした活動が行われている[2]。理事会はAEARUの定例行事の1つであり，年に1度当番大学において開催されることとなっている。

第34回AEARU理事会のスケジュール及び参加者は以下の通り（表1・図1参照）。

第34回AEARU理事会は，4月4日（金）9時30分から11時の間，オークラフロンティアホテルつくばアネックス1階「鼎の間」にて開催された。7大学より19名が参加し，2013年度の活動報告や2014年度の事業計画などが協議され，終了後は記念撮影が行われた。山水亭における昼食会の後，希望者は“Campus Tour & Lecture”に参加した。筆者が担当した柔道演武は“Campus Tour & Lecture”の一部であり，

1）筑波大学体育系
2）筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士課程前期
3）つくばユナイテッド柔道

1　加盟大学・機関は以下の通り。

香港	□香港科学技術大学	中国(5)	□北京大学 中国科学技術大学 復旦大学 □清華大学（北京） ◎南京大学	日本(6)	東京大学 東京工業大学 大阪大学 □筑波大学 京都大学 □東北大学
韓国(3)	○ソウル大学校 浦項工科大学校 韓国先端科学技術院				
台湾(2)	□国立清華大学（新竹） 台湾大学				

◎：会長（当該大学の学長）　○：副会長（当該大学の学長）
□：理事（当該大学の学長）

2　AEARUの設立の目的は以下の通り。
・学術交流と学生の交換留学を図る
・共通カリキュラムを導入し，相互に通用する品質保証システムをつくる
・研究施設，情報，資材を共有する
・研究プロジェクトについて協力する
・研究集会や国際行事に資金援助を行う
・その他の相互学術的な努力を指揮する
筑波大学グローバルコモンズ機構

表 1　Schedule of AEARU 34th Board of Directors Meeting

東亞研究型大學協會
東アジア研究型大学協会
동아시아연구중심대학협의회
The Association of East Asian Research Universities

筑波大学
University of Tsukuba

AEARU 34th Board of Directors Meeting

University of Tsukuba
April 3-4, 2014
Tsukuba, Japan

Program

	Date	Time	Program	Venue
1	April 3 Thursday		Arrival	
			Hotel check-in	OFHT Epochal
		18:30 - 20:00	Welcome Dinner	OFHT Main Build Jupiter 3F
2	April 4 Friday	09:00 - 09:30	Registration	OFHT Main Build Jupiter 3F
		09:30 - 11:00	34th Board of Directors Meeting	OFHT Main Build Jupiter 3F
		11:00 - 11:30	Group Photo	OFHT Main Build Jupiter 3F
		11:30 - 13:00	Luncheon	Sansuitei
		13:00 - 14:00	Campus Tour & Lecture 1 ・Center for Cybernics Research	University of Tsukuba
		14:00 – 15:00	Campus Tour & Lecture 2 ・Algal biomass research facility	University of Tsukuba
		15:00 - 15:30	Coffee Break	University of Tsukuba
		15:30 - 17:00	Campus Tour & Lecture 3 ・Physical education facilities	University of Tsukuba
		18:30 - 20:00	Dinner	OFHT Main Build Ciel Blue 11F

*OFHT=Okura Frontier Hotel Tsukuba

東亞研究型大學協會
東アジア研究型大学協会
동아시아연구중심대학협의회
The Association of East Asian Research Universities

筑波大学
University of Tsukuba

Association of East Asian Research University
The 34th Board of Directors Meeting

University of Tsukuba
April 4, 2014, Japan

List of Delegates in Attendance

China

Nanjing University

1. CHEN Jun
   President
2. JI Dafu
   Director, Office of International Cooperation and Exchanges
3. SUN Wen
   Deputy Director, Office of International Cooperation and Exchanges
4. Grace CHEN
   Program Officer, Office of International Cooperation and Exchanges

Peking University

5. GAO Song
   Vice President, Provost
6. LI Hongquan
   Deputy Director, Office of International Relations

Hong Kong

Hong Kong University of Science and Technology

7. Kar Yan TAM
   Associate Provost & Dean of Students

Japan

Tohoku University

8. Toshiya UEKI
   Executive Vice President
9. Sanae AOKI
   Special Appointed Professor for International Planning, Office of the President
10. Sayaka KOBAYASHI
    Staff Member, International Exchange Division

University of Tsukuba

11. Kyosuke NAGATA
    President
12. Caroline Fern BENTON
    Vice President
13. Kazuo AKIYAMA
    Vice Executive Director for Global Affairs
14. Osamu OHNEDA
    Director, Office of Global Initiative
15. Takashi ISHINO
    Manager, Office of Global Initiative
16. Chiho KABEYA
    Administrative Assistant, Office of Global Initiative

Korea

Seoul National University

17. IM Junggi
    Executive Vice President
18. SHEEN Seong-Ho
    Associate Dean for International Affairs

Taiwan

Tsing Hua University – Hsinchu

19. Hong HOCHENG
    President

図1　34th BOD attendance

本報告ではその様子を提示していく。

2　日程

“Campus Tour & Lecture” の日程より，柔道演武の位置づけを確認したい（図2参照）。

“Campus Tour & Lecture” は2014年4月4日（金）13時から17時までの4時間，筑波大学内の7つの施設において実施された。30分から1時間おきに様々な施設を巡り，その先々で本学教職員が本学の教育・研究の特色を活かしたおもてなしをさせていただく，という趣旨であった。視察者は計21名で，南京大学4名，台湾国立清華大学1名，東北大学3名，本学国際室7名及び体育・芸術エリア支援室6名であった。

柔道演武は，当初の予定より20分遅れた16時25分からはじまり，16時40分までの15分間，本学武道館柔道場において行われた。当日は15時過ぎより激しい雷雨があり，各施設間の移動が滞ったことが開始時刻の遅れの一因となったが，視察者よりケガや体調不良などの訴

1　日時：平成２６年４月４日（金）１３：００～１７：００

2　スケジュール：

１３：００～１３：５５　サイバニクス研究センター

【１５：２５～１５：３０　徒歩で移動】

１４：００～１４：５５　藻類バイオマス・エネルギーシステム研究拠点

【１４：５５～１５：００　マイクロバス（公用車）で移動】

１５：００～１５：２５　大学会館ラウンジでコーヒーブレイク

【１５：２５～１５：３０　徒歩で移動】

１５：３０～１５：４５　体操部によるラート等の練習風景を視察（中央体育館体操場）

１５：４５～１６：００　ダンス部によるダンスパフォーマンス（中央体育館ダンス場）

【１６：００～１６：０５　徒歩で移動】

１６：０５～１６：２０　柔道の演武（武道館柔道場）

【１６：２０～１６：２５　徒歩で移動】

１６：２５～１６：４０　体育総合実験棟（スペック）視察

１６：４０～１７：００　（晴天時）テニスコート、陸上競技場をペデから視察

【１７：００～１７：１５　マイクロバス（公用車）でホテルへ移動】

3　備考

参加大学：南京大学（4）、台湾清華大学（1）、東北大学（3）、本学（13）

図2　Schedule of Campus Tour & Lecture

えはなかった。

演武の実施にあたり，本学柔道部のコーチ及び学生の計6名に補助を依頼した。所属及び役割分担は以下の通り。

・小林優希（人間総合科学研究科2年次，講道館柔道女子参段）
会場設営，「柔の形」の演武，「五の形」の解説
・川戸湧也（人間総合科学研究科1年次，講道館柔道参段）
会場設営，「五の形」の演武
・渡部真未（つくばユナイテッド柔道，講道館柔道女子参段）
会場設営，「柔の形」の演武
・木原広樹（体育専門学群4年次，講道館柔道参段）
会場設営，投技及び乱取の演武
・木原啓伸（体育専門学群4年次，講道館柔道弐段）
会場設営，投技及び乱取の演武
・鈴木隆史（情報科学類3年次，講道館柔道弐段）
会場設営，デジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影及び映像編集

小林氏，川戸氏，渡部氏はいずれも本学柔道部コーチとして同部の指導や運営にも関わっている。木原広樹氏，木原啓伸氏，鈴木氏の3名はいずれも本学柔道部員である。

3　内容

演武は1）歓迎の挨拶，2）投技と乱取，3）柔の形，4）五の形，5）感謝の言葉の5パートに分けて行われた。司会及び技の解説は筆者及び小林氏が日本語で行い，これを通訳が英語に通訳した。当日のプログラム及び演武の内容は以下の通り（図3・表2参照）。

4　まとめ

今回の柔道演武は，当初岡田弘隆氏（体育系准教授）へ依頼があった。しかしながら岡田氏が全日本柔道体重別選手権大会(2014年4月4・5日，於：福岡国際センター，世界選手権代表最終選考会）に出場する選手に帯同しなければならず，代わって筆者が講師を務めた経緯がある。世界チャンピオンである岡田氏が演武を行えば，技の一発一発が強烈であり，インパクトがある。代役としては，岡田氏のインパクトに匹敵する演武をしなければならないと感じていた。

筆者単独では強烈なインパクトを視察者に与えることは困難であるため，なるべく多くの演武者を集め，さらに一連の流れを持たせ，総合力で優れたプログラムを作ることを目指した。今回は筑波大学の体育・柔道に流れる嘉納治五郎の思想に触れることをテーマとし，学生には投技や乱取，大学院生は「形」，筆者は「形」と解説など，それぞれの役割を明確にした。これは各人の演武に「嘉納の思想を探る」という付加価値が加えるねらいだったが，演武者自身が自分たちの仕事の意味を理解する手助けにもなったように感じた。

既に実績のある人に頼るのではなく，自分が何をすれば相手に喜んでもらえるかを考え，演武を行った。この経験は，筆者らにとって、意義のあるものであったと感じる。柔道を通じて社会に貢献出来ることが少しでも増えるよう，精進していきたい。

最後になりましたが，本学関係者及び補助員の皆様に感謝を申し上げ，本報告の結びとしたい。

IMAGINE THE FUTURE.

University of Tsukuba

第34回東アジア研究型大学協会(AEARU)理事会
体育施設等視察における柔道演武

日時:2014年4月4日(金) 16:20~ April 4, 2014
場所:武道館 *Budokan*

〜 Program 〜

1. 投技と乱取 Throwing techniques and *Randori*
   木原 広樹(体育専門学群4年次、参段)
   Hiroki KIHARA(UG4, 3rd dan)
   木原 啓伸(体育専門学群4年次、弐段)
   Hironobu KIHARA(UG4, 2nd dan)

2. 柔の形 *Ju-no-kata*
   小林 優希(人間総合科学研究科2年次、参段)
   Yuki KOBAYASHI(MC2, 3rd dan)
   渡部 真未(つくばユナイテッド柔道指導員、参段)
   Mami WATABE(Coach of Tsukuba united judo, 3rd dan)

3. 五の形 *Itsutsu-no-kata*
   川戸 湧也(人間総合科学研究科1年次、参段)
   Yuya KAWATO(MC1, 3rd dan)
   桐生 習作(体育系特任助教、五段)
   Shusaku KIRYU(Junior Assistant Professor, 5th dan, PhD)

©2010 University of Tsukuba

図3 プログラム

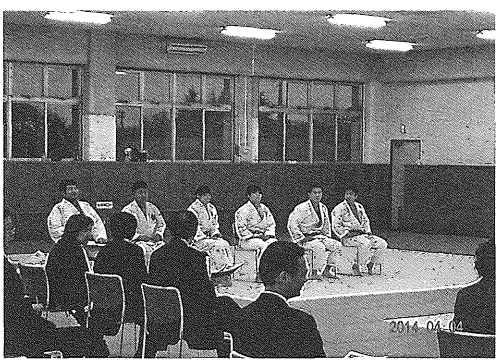

図4 会場風景

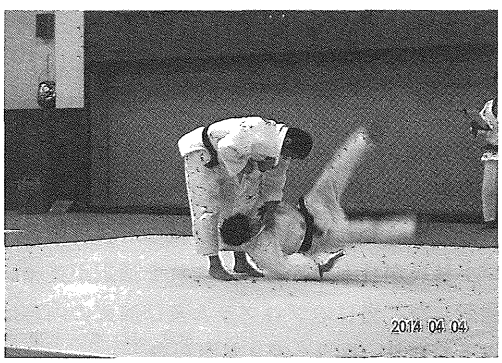

図5 投技

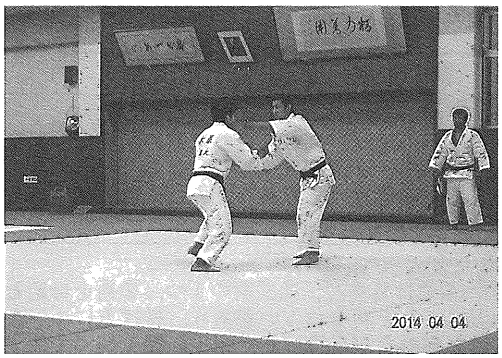

図６　乱取

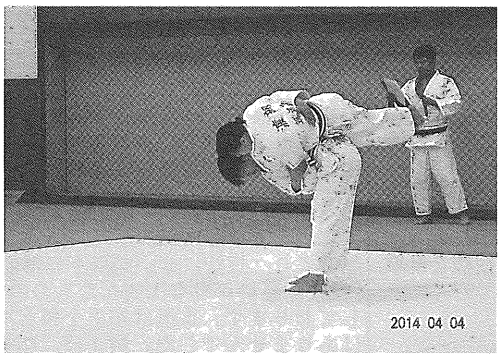

図７　柔の形

図８　五の形

表2　演武の流れ

場　面	内　容
歓迎の挨拶	視察者に対して，演武者一同立礼を行った。 筆者より，視察者に向けて歓迎の挨拶と演武内容の説明がなされた。柔道の演武は，大学生柔道部員による投技と乱取，大学院生による「形」，教員と大学院生による「形」の3本立てとなっており，このプログラムを通じて本学の体育の父であり，また柔道の父である嘉納治五郎の思想の一端を感じていただくことが趣旨であると述べられた。
投技と乱取	筆者より，投技について以下の解説がなされた。 「投技は嘉納が最も工夫したものの1つです。柔道は日本の伝統武術の1つ，柔術を母胎としております。柔術は相手を倒してから小刀にて首を刈るねらいがあり，投げ方にルールはありませんでした。例えば，相手の肘関節を極めながら投げる，相手の髪を掴んで倒すなど，自由でした。そのため，嘉納は柔術の稽古で絆創膏だらけになりました。さあ嘉納は柔道の投技にどのような工夫を施したのか，二人の演武から考えてみてください」。 木原広樹氏と木原啓伸氏より，以下の投技が披露された。 背負投 / 内股 / 腰車 / 巴投 / 大内刈→小内刈→内股 / 小内刈→背負投 筆者より，投技における嘉納の工夫について，以下の解説がなされた。 「安全に人を投げることが出来るようになった理由の1つは柔道衣です。柔術の稽古衣は肘と膝がむき出しになるような袖と裾の短いものでした。袖と裾を長くし，直接相手の体を掴まず，相手のバランスを崩して投げる方法を開発したのです。もう1つは『相手の背中をつける』ことを『一本』の条件にしたことです。筋肉の厚い背面から倒れて受身をすることにより，投げられても怪我をすることがなくなりました。本日は研究者の方々も多く，論より証拠が必要と存じますので，ここで乱取をお見せいたしましょう」。 木原広樹氏と木原啓伸氏より，乱取が披露された。 筆者より，柔道の世界的な普及に乱取が大きな役割を果たしたことが述べられた。
柔の形	筆者より，筑波大学体育専門学群のカリキュラムと柔道方法論研究室の演習内容について説明がなされた。 小林氏と渡部氏より，「柔の形」（第三教のみ）が披露された。 筆者より，両者の演武について以下の解説がなされた。 「柔道には8種類の『形』があります。今日は2つご覧頂きます。この『形』は『柔の形』といい，嘉納は別名『体操の形』とも呼んでいました。相手の攻撃や力に逆らわず，それを利用して勝つ理合を学べます。スピードを調整することで老若男女も実施できます。両者の手に注目してください。ご覧の通り，柔道衣を握っていません。また投技も腰に相手を乗せるだけで，実際に畳に倒れてはいません。この『形』は柔道衣と道場がなくても練習できるため，私たちはいつでもどこでも修行することが出来ます」。
五の形	筆者と川戸氏より，「五の形」が披露された。 小林氏より，両者の演武について以下の解説がなされた。 「これは水の動きを柔道的に表現した形とも言われています。一本目は小さい力でも合理的に間断なく攻め続ければ強大な力をも制する意味です。二本目は強大な攻撃の力を利用して制する意味です。三本目は渦潮の内円が外円を制する意味です。四本目は大波が岸辺に打ち寄せ，全てを飲み込む意味です。五本目は正面から打ち寄せる大波に直面し，身を捨てて勝つという意味です」。
感謝の言葉	筆者より感謝の言葉と本プログラムのまとめが述べられた。 「『形』はあと6つあります。乱取が体育教材としても，競技としても優れているにもかかわらず，なぜ嘉納は『形』も重視したのでしょうか？これは柔道の段に注目すると分かります。18歳でオリンピック金メダリストになったとしても，最高段位である十段はもらえません。昇段は乱取，『形』，修行年限，人間性で評価されます。乱取は青少年期に心身を鍛えるのに適し，『形』は乱取よりも比較的強度が低く，安全に老齢まで修行することができます。嘉納は生涯を通じ，自らを向上させようと努力する人を評価していました。こうした嘉納の精神を受け継ぎ，筑波大学の体育では，競技で顕著な成績を目指すことはもちろん，その中で人生を通じて自分の専門に取り組む精神と方法の伝達に努めております。 以上をもちまして，プログラムは全て終了となります。最後までご覧頂き，ありがとうございました」。 視察者に対して，演武者一同立礼を行った。